



## 2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年11月13日

上場会社名 株式会社共和コーポレーション 上場取引所 東  
 コード番号 6570 URL <https://www.kyowa-corp.co.jp>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)宮本 和彦  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営企画室長 (氏名)澤田 亮 (TEL) (026)227-1301  
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 2020年12月10日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第2四半期の業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	4,446	△35.0	△292	—	93	△46.9	△513	—
2020年3月期第2四半期	6,840	—	199	—	176	—	124	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	△86.20	—
2020年3月期第2四半期	21.17	20.92

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	10,637	2,718	25.6
2020年3月期	10,308	3,260	31.6

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 2,718百万円 2020年3月期 3,260百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	8.50	—	9.00	17.50
2021年3月期	—	5.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

### 3. 2021年3月期の業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,222	△24.8	△298	—	185	△44.8	△411	—	△68.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2021年3月期2Q	6,080,130株	2020年3月期	6,080,130株
2021年3月期2Q	121,300株	2020年3月期	120,400株
2021年3月期2Q	5,959,223株	2020年3月期2Q	5,858,162株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、2020年5月21日付発表の2020年3月期決算短信 (2019年4月1日~2020年3月31日) の業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「通期業績予想及び剰余金の配当 (中間配当) に関するお知らせ」をご参照ください。

新型コロナウイルス感染症による事業への影響は、今後も段階的かつ広範囲に出てくると予想しており、依然として当社業績への影響は不透明な部分が多い状況ではありますが、当第2四半期累計期間の業績等を踏まえ、現時点で入手可能な情報に基づいて業績予想を算出いたしましたので、公表いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11
(追加情報)	12
(重要な後発事象)	12
3. その他	13
継続企業の前提に関する重要事象等	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間(2020年4月1日から9月30日まで)の当社の業績は、売上高は4,446,313千円(前年同四半期比35.0%減)、営業損失は292,025千円(前年同四半期は営業利益199,890千円)、経常利益は93,723千円(前年同四半期比46.9%減)、四半期純損失は513,707千円(前年同四半期は四半期純利益124,035千円)となりました。

当社が属するアミューズメント業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大及び外出自粛等経済活動の抑制により消費活動が一気に冷え込み、先行きが極めて不透明な状況となりました。

このような状況の中、当社の主力事業であるアミューズメント施設運営事業におきましては、第1四半期会計期間中に、政府の緊急事態宣言を受けた店舗の臨時休業及び営業時間の短縮等の措置を講じたことにより、売上高は前年実績を大きく下回る結果となりました。しかしながら緊急事態宣言解除後は、感染防止対策を講じつつ順次営業を再開しており、お客様のご来店も徐々に増えて店舗にも活気が戻ってまいりました。

当社は引き続き、人件費のコントロール及び諸経費全般に亘って削減に努めつつ、店頭での新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を徹底し、お客様が安全に、そして安心してお楽しみいただける店舗運営に注力しております。

当第2四半期累計期間における、セグメント別の概況は次のとおりであります。

#### ① アミューズメント施設運営事業

アミューズメント施設運営事業におきましては、店舗従業員のマスク着用、店舗出入口付近のアルコール消毒液の設置、出入口ドア開放による換気、定期的なゲーム機の消毒清掃等を継続しつつ、YouTubeを活用した情報配信や、お客様の密を回避したイベントを実施いたしました。また「生活応援キャンペーン」と題し、連続コインの投入でボックスティッシュやトイレトペーパー等の生活用品プレゼントのキャンペーンを全店にて実施し、売上の回復に貢献いたしました。

なお2020年5月に「アピナ キッズパーク大津京」を開設する一方、不採算店舗4店舗を閉鎖しており、総店舗数は56店舗となっております。

以上の結果、アミューズメント施設運営事業における売上高は3,498,326千円(前年同四半期比36.0%減)、セグメント損失(営業損失)は32,637千円(前年同四半期は営業利益536,966千円)となりました。

#### ② アミューズメント機器販売事業

アミューズメント機器販売事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によるアミューズメント機器の販売や納期の延期、景品等の受注キャンセル等により、第1四半期会計期間の売上高は前年実績を大きく下回る事となりました。その後、アミューズメント機器の販売は依然として厳しい状況が続いておりますが、景品販売においては停止されていた出荷が再開され、また人気キャラクター景品の売行きが好調なこともあり、売上は徐々に回復しております。

この結果、アミューズメント機器販売事業における売上高は859,750千円(前年同四半期比33.8%減)、セグメント利益(営業利益)は14,288千円(前年同四半期比43.8%減)となりました。

#### ③ その他事業

その他事業とは、主に各種媒体を利用した広告代理店業であり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるイベント等の自粛や広告費の削減等が発生したものの、販促品の販売が増加し、売上高は88,236千円(前年同四半期比19.6%増)、セグメント利益(営業利益)は8,674千円(前年同四半期177.4%増)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

##### (資産)

当第2四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末と比較して328,569千円増加し、10,637,134千円となりました。この要因は、現金及び預金が1,146,402千円増加したこと、受取手形及び売掛金が325,311千円、アミューズメント機器(純額)が509,463千円それぞれ減少したこと等によるものであります。

##### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末と比較して871,214千円増加し、7,919,030千円となりました。この要因は、1年内返済予定の長期借入金181,714千円、長期借入金1,560,758千円それぞれ増加し

たこと、支払手形及び買掛金が329,191千円、未払金が340,486千円それぞれ減少したこと等によるものであります。(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末と比較して542,644千円減少し、2,718,104千円となりました。この要因は、利益剰余金が567,344千円減少したこと等によるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、3,305,063千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は6,861千円(前年同四半期は886,797千円の獲得)となりました。これは、税引前四半期純損失299,873千円、減価償却費662,913千円、売上債権の減少325,311千円、仕入債務の減少329,191千円等によるものです。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は550,388千円(前年同四半期は973,403千円の使用)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出508,514千円等によるものです。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は1,681,651千円(前年同四半期は161,818千円の使用)となりました。これは、長期借入れによる収入2,500,000千円、長期借入金の返済による支出757,528千円等によるものです。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2020年5月21日付発表の2020年3月期決算短信(2019年4月1日～2020年3月31日)の業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「通期業績予想及び剰余金の配当(中間配当)に関するお知らせ」をご参照ください。

新型コロナウイルス感染症による事業への影響は、今後も段階的かつ広範囲に出てくると予想しており、依然として当社業績への影響は不透明な部分が多い状況ではありますが、当第2四半期累計期間の業績等を踏まえ、現時点で入手可能な情報に基づいて業績予想を算出いたしましたので、公表いたします。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,610,460	3,756,863
受取手形及び売掛金	678,510	353,198
有価証券	—	200,000
商品	37,633	35,104
貯蔵品	169,392	133,270
未収入金	40,586	9,198
その他	301,761	775,168
貸倒引当金	△1,826	△697
流動資産合計	3,836,518	5,262,107
固定資産		
有形固定資産		
アミューズメント機器(純額)	1,926,815	1,417,351
建物(純額)	1,311,338	1,243,905
機械及び装置(純額)	22,511	21,183
工具、器具及び備品(純額)	164,432	142,902
土地	764,314	764,314
その他(純額)	79,248	41,164
有形固定資産合計	4,268,660	3,630,820
無形固定資産		
その他	31,372	33,861
無形固定資産合計	31,372	33,861
投資その他の資産		
投資有価証券	103,629	139,148
繰延税金資産	236,096	4,369
敷金及び保証金	1,324,730	1,267,707
その他	568,607	350,313
貸倒引当金	△61,050	△51,194
投資その他の資産合計	2,172,013	1,710,344
固定資産合計	6,472,045	5,375,026
資産合計	10,308,564	10,637,134

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	942,962	613,770
1年内返済予定の長期借入金	1,204,370	1,386,084
未払金	752,093	411,607
未払法人税等	1,046	28,889
未払消費税等	97,180	15,574
資産除去債務	20,307	6,949
賞与引当金	69,458	40,030
設備関係支払手形	115,439	7,582
その他	47,607	43,557
流動負債合計	3,250,466	2,554,045
固定負債		
長期借入金	3,319,479	4,880,237
資産除去債務	472,118	480,882
その他	5,752	3,865
固定負債合計	3,797,349	5,364,985
負債合計	7,047,816	7,919,030
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	709,709	709,709
資本剰余金	501,395	501,395
利益剰余金	2,054,205	1,486,860
自己株式	△24,441	△24,441
株主資本合計	3,240,867	2,673,522
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	19,880	44,581
評価・換算差額等合計	19,880	44,581
純資産合計	3,260,748	2,718,104
負債純資産合計	10,308,564	10,637,134

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	6,840,186	4,446,313
売上原価	3,613,524	2,451,807
売上総利益	3,226,662	1,994,505
販売費及び一般管理費	3,026,772	2,286,531
営業利益又は営業損失(△)	199,890	△292,025
営業外収益		
受取利息	1,017	880
受取配当金	2,134	509
受取保険金	45,068	370,942
その他	12,800	31,249
営業外収益合計	61,021	403,581
営業外費用		
支払利息	14,709	15,780
貸倒引当金繰入額	66,758	—
その他	2,931	2,051
営業外費用合計	84,399	17,832
経常利益	176,511	93,723
特別利益		
固定資産売却益	8,177	—
補助金収入	—	37,885
特別利益合計	8,177	37,885
特別損失		
臨時休業による損失	—	344,536
固定資産除却損	18,972	950
減損損失	—	85,995
特別損失合計	18,972	431,482
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	165,717	△299,873
法人税、住民税及び事業税	66,110	16,532
法人税等還付税額	—	△23,607
法人税等調整額	△24,429	220,908
法人税等合計	41,681	213,833
四半期純利益又は四半期純損失(△)	124,035	△513,707

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	165,717	△299,873
減価償却費	689,822	662,913
減損損失	—	85,995
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	61,900	△10,984
賞与引当金の増減額 (△は減少)	3,191	△29,428
受取利息及び受取配当金	△3,152	△1,389
支払利息	14,709	15,780
固定資産売却損益 (△は益)	△8,177	—
有形固定資産除却損	18,972	950
売上債権の増減額 (△は増加)	235,936	325,311
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,199	38,651
仕入債務の増減額 (△は減少)	△148,408	△329,191
未払消費税等の増減額 (△は減少)	75,121	△81,605
その他	△138,542	△420,219
小計	964,890	△43,090
利息及び配当金の受取額	2,208	565
利息の支払額	△14,618	△15,771
法人税等の支払額	△65,683	△6,433
法人税等の還付額	—	57,868
営業活動によるキャッシュ・フロー	886,797	△6,861
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△409,000	△398,500
定期預金の払戻による収入	374,500	376,500
有価証券の取得による支出	—	△200,000
有形固定資産の取得による支出	△882,499	△508,514
有形固定資産の売却による収入	58,400	—
無形固定資産の取得による支出	△1,084	△6,035
保険積立金の積立による支出	△16,937	△9,232
保険積立金の解約による収入	1,678	156,576
敷金及び保証金の差入による支出	△99,470	△1,844
敷金及び保証金の回収による収入	396	40,527
その他	615	135
投資活動によるキャッシュ・フロー	△973,403	△550,388

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	600,000	2,500,000
長期借入金の返済による支出	△719,677	△757,528
リース債務の返済による支出	△7,450	△7,213
割賦債務の返済による支出	△2,125	—
ストックオプションの行使による収入	19,844	—
配当金の支払額	△52,409	△53,606
財務活動によるキャッシュ・フロー	△161,818	1,681,651
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△248,424	1,124,402
現金及び現金同等物の期首残高	2,677,732	2,180,660
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,429,308	3,305,063

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	アミューズ メント施設 運営	アミューズ メント機器 販売	計				
売上高							
外部顧客への売上高	5,468,023	1,298,381	6,766,405	73,781	6,840,186	—	6,840,186
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	5,468,023	1,298,381	6,766,405	73,781	6,840,186	—	6,840,186
セグメント利益	536,966	25,443	562,409	3,126	565,536	△365,646	199,890

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業であり、広告代理店事業を含んでおります。

2. 調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	アミューズ メント施設 運営	アミューズ メント機器 販売	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,498,326	859,750	4,358,077	88,236	4,446,313	—	4,446,313
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	3,498,326	859,750	4,358,077	88,236	4,446,313	—	4,446,313
セグメント利益 又は損失(△)	△32,637	14,288	△18,348	8,674	△9,674	△282,351	△292,025

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業であり、広告代理店事業を含んでおります。

2. 調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アミューズメント施設運営」セグメントにおいて、減損損失85,995千円を計上しております。

(追加情報)

前事業年度の有価証券報告書及び当事業年度の第1四半期報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定及び会計上の見積りについては、新型コロナウイルス感染症の影響は長期に及び、治療薬やワクチンの開発によって来期以降には収束していくものの完全には撲滅できないため、感染拡大以前の状況には戻らず多少の影響が続くと仮定して、現時点で入手可能な情報に基づいて固定資産の減損に関する判断及び繰延税金資産の回収可能性に関する会計上の見積りを行うことに変更しております。

しかしながら、過去に例を見ない新型コロナウイルス感染症拡大の影響は不確実な部分があるため、今後長期化した場合や深刻化した場合は、会計上の見積りに影響を及ぼす可能性があります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

### 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。